

2050年の水産資源を 日本の食卓から考える

次第

2018年11月10日（土） 13:00 - 17:00

13:00-13:15 趣旨説明 古谷 研（創価大学工学研究科、日本学術会議第二部会員）

座長：大竹臣哉（福井県立大学海洋生物資源学部）

13:15-13:45 「養殖の将来：新品種の創出と遺伝子資源の保存・保護」

吉崎悟朗（東京海洋大学学術研究院）

13:45-14:15 「クロマグロの将来：資源量の推移と持続可能な養殖方法のあり方」

佐藤秀一（東京海洋大学学術研究院）

14:15-14:45 「サケの将来：気候変動下における持続可能な保全と利用のあり方」

帰山雅秀（北海道大学名誉教授）

14:45-14:55 休憩

座長：佐藤秀一（東京海洋大学学術研究院）

14:55-15:25 「サンマの将来：気候変動による沖合漁業への影響と適応のあり方」

木所英昭（水産研究・教育機構東北水研）

15:25-15:55 「アワビの将来：資源変動機構に基づく漁業と資源管理・増殖のあり方」

河村知彦（東京大学大気海洋研究所）

総合討論：パネルディスカッション「資源・流通・食卓」

15:55-16:55 司会：萩原篤志（長崎大学水産・環境科学総合研究科、日本学術会議連携会員）

パネリスト：八木信行（東京大学農学生命科学研究科、日本学術会議連携会員）、畑江敬子（お茶の水大学名誉教授）、五月女圭一（株式会社ゲイト代表取締役CEO）、三宅 香（イオン株式会社執行役）

16:55-17:00 閉会の挨拶 竹内俊郎（東京海洋大学、日本学術会議連携会員）



会場：日本学術会議講堂

〒106-8555 東京都港区六本木7丁目22-34
東京メトロ千代田線「乃木坂」駅徒歩3分

■お問い合わせ

佐野元彦（実行委員会）

E-mail: msano00@kaiyodai.ac.jp

一般公開

参加費無料
事前申込不要
当日先着順
(定員250名)

主催：日本学術会議食料科学委員会水産学分科会

共催：水産・海洋科学研究連絡協議会、日本農学アカデミー、日本水産学会、東京海洋大学

後援：大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、水産海洋学会、日本付着生物学会、日本魚病学会、国際漁業学会、日本ベントス学会、日本魚類学会、地域漁業学会、日仏海洋学会、日本海洋学会、日本水産増殖学会、マリンバイオテクノロジー学会、日本水産工学会、日本プランクトン学会、漁業経済学会、日本藻類学会、日本海洋政策学会